

Ⅲ 「教育の日」の制定状況と事業について（調査報告）

1 未制定府県（12府県、回答11県）の平成27年12月以降の状況について

- ①新たに制定された県（1県）
 - ・神奈川県「かながわ教育月間」
（「教育の日」と事業が同じため準制定県）
 - ②制定の見込みが出てきた県 なし
 - ③見込みのない10府県のうち8県は県教委・県議会等へ要請を続けていると回答。
- * 都道府県レベルの制定率は76.6%（準制定県を含む）であり、全連退としても国へ祝日として制定するよう働きかけている。

2 新たに制定された市町村について

- ・北海道美唄市 ・群馬県上野村
 - ・佐賀県鳥栖市 ・宮崎県国富町
 - ・和歌山県御坊市 （3市1町1村）
- * 市町村での「教育の日」制定は、地域に密着しており教育振興上大きな意義がある。

3 「教育の日」制定都道府県の調査

(1) 制定へ向けて退職校長会としての効果的な働きかけ（回答19）

- ①退職校長会が中心になり、教育関係団体（9～30団体）が「教育の日」制定推進協議会を立ち上げ、県民への啓発、知事、教育長や県議会等へ請願活動を続けた（9県）
 - ②退職校長も属している県教育会より県教育長や県議会へ請願した（2県）
 - ③特になし（8県）
- * 「教育の日」の制定には、退職校長会が主導的に関わり、知事、教育長、議会等への請願が最も効果的といえる。

(2) 市町村の「教育の日」制定に関わる退職校長会の働きかけ（回答27）

- ①県退職校長会の働きかけに応じて各市町村の退職校長会が動いて実施。（8県）
- ②県退職校長会としては特に働きかけていない。（19県）

(3) 「教育の日」の諸行事の財源について

（予算の多い順に記載）

- ・T県（700万円程度）（県補助金、51団体分担金、48支援企業協賛金、繰越金）
 - ・I県（537万円）（負担金、協賛金、県補助金、大会負担金、繰越金）
 - ・K県（485万円）（県教委予算）
 - ・S県（313万円）（県教委予算）
 - ・N県（120万円ほど）（負担金、繰越金）
 - ・Y県（115万円）（共催団体分担金、県ひとつづくり財団補助金、実施市補助金）
 - ・S県（68万円ほど）（県の予算）
 - ・M県（60万円ほど）（29団体負担金、教育2団体助成金）
 - ・A県（42万5千円）（推進協議会員協力金、参加団体負担金、教職員互助会補助）
 - ・T県（10万円ほど）（退職校長会会員寄付、教育関係諸団体寄付）
- * 県や県教委が主催する「教育の日」の事業予算は予算化され額も比較的大きいが、教育諸団体が主催する場合は、予算的にかなり厳しい状況がうかがえる。
- また、行事の規模によって経費も様々なことが分かる。

4 「教育の日」を祝日とする場合、いつがよいか、また、祝日のない6月はどうか

- ・「教育の日」は11月が望ましい。（16県）
 - ・「教育の日」を祝日にするなら6月でもよい。（8県）
 - ・その他、月日を決めるには、その根拠が必要であるとの意見もあった。
- * 祝日化する場合の月日については、11月に「教育の日」が定着していることから11月が望ましいという回答が多い一方、祝日になるなら6月を含めて特に月日は問わないという意見に分かれた。

以上

1 広島県世羅町について

世羅町は、広島県中東部の世羅台地と呼ばれる標高350mから450mに位置する自然豊かな中山間地で、古くから農産物の供給基地として拓けた大田庄や今高野山に代表される歴史と文化に育まれた町です。現在、町の人口は1万7千人で、農業を基幹産業とし6次産業の推進や花・果樹の観光農園などの取組を行っています。

世羅町教育委員会では、「豊かな心を持ち、たくましく未来を拓く」を基本理念として、国や県の施策と連動させ、世羅町教育プランをもとに、種々の教育施策を推進しています。

「自立・挑戦・創造」をスローガンに、町民の教育に対する理解を深め、学校、行政、地域が連携して本町教育の充実を図ることにより、明日の社会を担うしなやかで品格のある子どもたちを育成するとともに、文化・芸術活動の振興と『駅伝の里』としてのスポーツや体力づくりを推進しています。

2 「教育の日」制定について

こうした種々の教育施策の更なるエポックメーカーングとして、平成24年度に11月1日を「せら教育の日」とすることを条例制定し、町民の教育に対する関心と理解を深め、学校、家庭及び地域社会が連携して本町教育の充実と発展を図ることとしました。また、「せら教育の日」の趣旨に相応しい取り組みを行う期間として、11月を「せら教育月間」としました。

3 「輝くせらの学校文化発表会」の誕生

町内の小中学校においては、それぞれの学校で特色ある学校づくりを進めています。その基盤となっているのが、各校で取り組まれている「ふるさと学習」です。これは、それぞれの校区内にある自然、文化財、歴史、伝統、民話等を学習し、自分たちが生まれ育っている地域について学び、地域を知る学習です。そして、この学習成果を「学校文化」として創りあげてき

ています。まさに学校文化は、それぞれの学校の基盤となる地域を、子ども目線で表現した文化活動です。

こうして創られた学校文化を、11月1日の「せら教育の日」に開催する「輝くせらの学校文化発表会」で発表するわけです。町内7つの小中学校の児童生徒（小学校は高学年）が世羅文化センターに集合し、各校の学校文化を発表するのです。合唱や合奏をはじめプレゼンテーション、和太鼓演奏、鼓笛演奏、さらには郷土の民話をもとにした組曲や舞踊などのステージ発表や、絵画や書、被服等の展示発表も行います。各校が平常の学校生活の中で創り上げた「学校文化」を町民に発表し、各校が相互交流をしていく事業です。



「せら教育の日」で発表する子どもたちの一生懸命な表現は、町民に大きな感動と未来に対する希望を与えています。



「教育の日」の制定状況（平成28年12月現在）

— 36都道県、105市、62町、11村、1区 —

○北海道地区 制定—北海道

（北海道）石狩市 岩見沢市 小樽市 帯広市 苫小牧市 函館市 砂川市 稚内市
滝川市 赤平市 旭川市 美瑛市 白老町 豊頃町 本別町 幕別町 月形町
今金町 陸別町 大樹町 池田町 浦幌町 上砂川町 音更町 中札内村

○東北地区 制定県—青森県 岩手県 宮城県 秋田県 福島県 山形県

（青森県）野辺地町（秋田県）大館市 男鹿市

（山形県）上山市 新庄市 天童市 山形市 山辺町 朝日町（福島県）浅川町

○関東甲信越地区 制定県—茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 東京都 長野県 神奈川県

（茨城県）ひたちなか市 土浦市 守谷市 稲敷市 牛久市 龍ヶ崎市 筑西市 結城市
阿見町 河内町 利根町 茨城町 大洗町 城里町 東海村 美浦村

（群馬県）前橋市 渋川市 藤岡市 沼田市 明和町 神流町 上野村

（埼玉県）白岡市（千葉県）佐倉市 銚子市 野田市 南房総市 鋸南町

（東京都）あきる野市 葛飾区（山梨県）甲府市 中央市（新潟県）上越市

○東海北陸地区 制定県—石川県 岐阜県 静岡県

（静岡県）掛川市（福井県）福井市 敦賀市（三重県）名張市

○近畿地区 制定県—滋賀県 兵庫県 奈良県 和歌山県

（滋賀県）栗東市（奈良県）奈良市

（和歌山県）和歌山市 海南市 橋本市 有田市 田辺市 新宮市 岩出市 紀の川市 御坊市
紀美野町 かつらぎ町 九度山町 高野町 広川町 由良町 有田川町 美浜町 日高町
みなべ町 印南町 白浜町 上富田町 すさみ町 串本町 那智勝浦町 太地町 古座川町
湯浅町 日高川町 北山村

○中国地区 制定県—島根県 岡山県 広島県 山口県 鳥取県

（鳥取県）鳥取市 南部町（広島県）三原市 府中市 東広島市 世羅町

（山口県）美祢市 萩市 宇部市 和木町

○四国地区 制定県—徳島県 香川県 愛媛県 高知県

（徳島県）美馬市 三好市 鳴門市 つるぎ町（高知県）安芸市 三原村

○九州地区 制定県—長崎県 熊本県 大分県 鹿児島県 宮崎県 沖縄県

（福岡県）筑後市 宗像市 八女市 糸島市（佐賀県）嬉野市 唐津市 多久市 神崎市
小城市 佐賀市 伊万里市 武雄市 鳥栖市 玄海町（熊本県）八代市 荒尾市 宇土市
宇城市 合志市 大津町 美里町 和水町 氷川町（大分県）宇佐市 国東市 佐伯市
津久見市 日田市 豊後高田市 別府市 杵築市 玖珠町 九重町 姫島村

（宮崎県）串間市 日向市 日南市 都城市 宮崎市 高岡町 三股町 国富町

（沖縄県）浦添市 宮古島市 那覇市 石垣市 糸満市 南城市 名護市 うるま市

沖縄市 宜野湾市 南風原町 西原町 八重瀬町 金武町 伊是名村 恩納村 中城村
読谷村

※上記中、岐阜県は「教育週間」、静岡県は「家庭教育の日」、兵庫県は「兵庫の教育推進月間」、長崎県は「長崎っ子の心をもつめる教育週間」、鹿児島県は「地域が育む“かごしまの教育”県民週間」、宮崎県は「みやざきこども教育週間」、神奈川県は「かながわ教育月間」と呼ぶ。

